

I 団体の概要

令和2年7月1日現在

団体名	公益財団法人姫路市救急医療協会				
団体所管課	健康福祉局 保健福祉部 地域医療推進課				
設立	昭和53年(1978年) 3月31日				
資本金	40,200千円	市出資金	20,200千円	50.20%	
設立目的					
増大する救急医療需要に対処するため、姫路市における救急医療体制の確保及び充実を図り、もって地域住民の健康の保持・増進と福祉の向上に寄与することを目的とする。					
寄附行為(定款)に掲げる事業					
(1)姫路市休日・夜間急病センターの管理運営事業 (2)その他この法人の目的を達成するために必要な事業					
主 な 事 業	事業名	R3年度事業費 (予算額)	事業概要		
	急病センター管理 運営事業	519,882千円	姫路市休日・夜間急病センターの管理運営事業(指定 管理)		
	救急医療施設後送 事業	352,012千円	急病患者の第二次救急医療施設への後送事業、小児救 急医療体制整備事業(受託事業)		
	救急医療電話相談 事業	13,255千円	小児科を対象とする電話相談事業(受託事業)		
役 職 員 数 (注1)		常勤(注2) (うち市派遣)	非常勤	一般職 (うち市派遣)	嘱託・ 臨時等
	役員数	1人(1人)	18人	職員数	18(0人)
	役員平均年齢(常勤)	***歳	役員平均年収(常勤)		***
	職員平均年齢(一般職)	45.0歳	職員平均年収(一般職)		5,923千円
年 度		H30	R1	R2(決算見込み)	
市 か ら の 財 政 支 出 等	委託料	808,250千円	862,984千円	801,994千円	
	補助金				
	貸付金 (年度末残高)				
	損失補償の対象 となる借入金				
財 務 概 況	当期収入	808,273千円	863,006千円	802,016千円	
	当期支出	808,964千円	863,373千円	801,994千円	
	当期収支差額	△691千円	△367千円	22千円	
	次期繰越収支差額	27,431千円	27,064千円	27,086千円	
	総資産	272,816千円	297,418千円	297,000千円	
	総負債	205,385千円	230,354千円	230,000千円	
	当期正味財産増減額	△916千円	△367千円	22千円	
正味財産	67,431千円	67,064千円	67,086千円		
ホームページアドレス	http://www.himeji99iryo.or.jp				

注1:役員平均年齢、役員平均年収、職員平均年齢、職員平均年収には、市からの派遣職員は含まない。

注2:常勤役員には、週29時間以上勤務する常勤的な非常勤役員を含む。

注3:常勤役員は1名のみのため、役員平均年齢及び平均年収は個人情報保護の観点から非公開とします。

II 基本方針

1. 団体の前計画期間（平成28年度～令和2年度）における主な取組実績

- ・平成30年度に、姫路市、医師会及び協会の3者で神戸大学循環器内科を訪問して急病センターへの出務に係る協力を依頼し、了承を得ることができた（平成31年度より神戸大学循環器内科から年間約90日の出務実績がある）。
- ・救急医療電話相談事業について、平成30年10月より、急病センター受診者の約1割を占めている西播磨地域へ対象地域を拡大した。
- ・救急医療フォーラムを開催（市、医師会との共催）し、市民への救急医療に関する知識の普及、適正受診に係る啓発等を行った。

2. 団体を取り巻く環境・経営上の課題

- ・内科、小児科とも、医師の高齢化と新規開業医師の減少から、急病センターに出務する医師の確保が年々困難な状況となっている。
- ・看護師についても人員の確保・充実が困難な状況となっている。
- ・後送医療機関にあつては、医師不足や採算性の悪化に伴い救急医療から撤退する医療機関が発生しており、輪番体制を維持することが困難になっている。

3. 団体の将来像（ビジョン）

姫路市における一次救急医療の分野において、医師を安定して継続的に確保できる団体の強みを活かして、市が直接行うには困難で効率的でなく、かつ一般医療機関が担うことが困難な休日・夜間の一次救急医療を提供することにより、市民が安心して暮らせる救急医療体制を確保するという役割を果たしていく。

4. 団体の改革の方向性

救急医療体制の確保及び充実を図るため、今後も安定的な団体運営を行うとともに、後送医療機関輪番体制の維持に努める。また、電話相談事業を充実させ、不要不急の救急受診を抑制することにより、一次救急を担う急病センターの診療体制維持に努める。

Ⅲ 健全経営に関する計画

計画期間：令和3年度～令和7年度

1. 経営目標

目標	市民が安心して暮らせる救急医療体制の確保
目標達成に向けた取組み	<ul style="list-style-type: none"> 不要不急の患者を抑制し、適正受診を促す。 安定的な診療体制を維持する。

2. 数値目標・指標

健全経営に関する数値目標	令和元年度実績値	目標値（令和7年度）
不要不急の受診抑制（電話相談により受診に至らなかった率）	73%	78%
正規看護師の充足率	100%	100%

経営目標達成に向けた取組みの進捗状況やその成果を測るための指標

診療体制（公募医師以外の出務率・正規看護師の充足率）

後送医療体制（後送輪番の充足率）

電話相談による不要不急の受診抑制（電話相談により受診に至らなかった率）

3. 事業運営の最適化

事業の最適化及び事業実施方法の適正化

急病センター管理運営事業	不要不急の患者を抑制し、適正受診を促すための市民啓発を行う。
	医師、看護師等医療従事者の確保に務める。
電話相談事業	電話相談員の確保に努め、研修等を行い、その資質の向上に努め、適正受診につなげる。

利用者満足度の把握・改善

利用者アンケートを実施し、利用者のニーズ・満足度を把握する。

4. 団体運営体制の改善

(1) 執行体制

役員体制	現在の体制を維持しつつ、定款に定める役員定員の枠内で、看護師資格を有する看護協会役員等を新たに理事に選任することを検討する。
職員体制	現在の体制を原則とするが、職員増による事務体制の強化について検討する。
リスク管理の強化	各種のマニュアル等を適宜適切に見直し、個人情報の管理及びコンプライアンスについても徹底を図る。

(2) 人事・給与

「外郭団体の職員の給与及びその他の勤務条件に関する指導基準」への適合	指導基準に適合済である。
人材育成及び士気の高揚	研修により職員の資質向上を図る。看護師については、兵庫県看護協会等の研修会に参加してスキルアップを図る。

(3) 財務管理

収入確保の取組み	指定管理料の適正な額が確保できるよう、市及び医師会との連携に努める。
基本財産等の運用	ペイオフ対策として預金の分散化を図っている。

5. 財務状況の見通し（試算）

年度		R3	R4	R5	R6	R7	
財	管 急 理 病 運 セ 営 ン 事 タ 業 	当期収入	519,882千円	521,493千円	523,113千円	524,741千円	526,377千円
		当期支出	519,882千円	521,493千円	523,113千円	524,741千円	526,377千円
		当期収支差額	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
		次期繰越収支差額	80千円	80千円	80千円	80千円	80千円
務	救 急 送 医 療 事 業 設 施	当期収入	352,012千円	352,012千円	352,012千円	352,012千円	352,012千円
		当期支出	352,012千円	352,012千円	352,012千円	352,012千円	352,012千円
		当期収支差額	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
		次期繰越収支差額	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
概	電 話 相 急 談 医 療 事 業	当期収入	13,255千円	13,255千円	13,255千円	13,255千円	13,255千円
		当期支出	13,255千円	13,255千円	13,255千円	13,255千円	13,255千円
		当期収支差額	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
		次期繰越収支差額	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
況	合 計	当期収入	885,149千円	886,521千円	887,893千円	889,265千円	890,637千円
		当期支出	885,149千円	886,521千円	887,893千円	889,265千円	890,637千円
		当期収支差額	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
		次期繰越収支差額	80千円	80千円	80千円	80千円	80千円
	総資産	297,000千円	297,000千円	297,000千円	297,000千円	297,000千円	
	総負債	230,000千円	230,000千円	230,000千円	230,000千円	230,000千円	
	当期正味財産増減額	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	
	正味財産	67,000千円	67,000千円	67,000千円	67,000千円	67,000千円	